

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年6月14日】第86号



教員の研修

6月4日(金)、農大稲花小は休校でした。子どもたちも久しぶりに、3連休で体力と気力を養ったことでしょう。

この日は、東京私立初等学校協会の合同研修会が行われ、本校の教員も、東京都の私立小学校全校の教員とともに、研修を受けました。授業科目や活動別に分かれ、今年は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンラインでの研修です。他校の児童の授業を参観したり、他校の先生方と議論をしたりする中で、本校の教員も自らの教育を振り返る機会となりました。

私立小学校では、各校の教育の理念に基づいた教育が行われています。本校の教員も、本校の教育の理念「冒険心の育成」を心に、日々、研鑽に努めてまいります。

東京私立初等学校協会 <http://www.shigaku.elementary-school.tokyo/katsudo/>

田奈の田んぼへ

6月8日(火)、3年生は田奈の田んぼ(横浜市青葉区)に、田んぼの観察のために出かけました。二つのグループに分かれて、一つのグループは、田んぼのオーナーで地元で農業を営む野路さんにお話を伺いました。もう一つのグループは、田んぼの周辺の川の様子、住宅地の様子、そして、果樹園の様子などを観察して歩きました。様々な質問があった中、農業を続ける理由について子どもたちから問われた野路さんは、皆が喜んでくれるからと答えてくださり、子どもたちも納得の表情でした。

暑い暑い日でしたが、日差しの中で農作物が育ち、いろいろな生き物が生き抜いていこうとするのを体感できたのではないのでしょうか。川べりの涼しい風も、子どもたちの頬を撫でていきました。

6月10日(木)、今度は2年生が田奈の田んぼに、田んぼの観察のために出かけました。5月21日(金)に行われた1年生の田植えに続いて、今回も、東京農業大学農芸化学科横田健治教授、加藤拓准教授、応用生物科学部食品加工技術センター野口智弘教授のご指導、そして農芸化学科の院生・学生4名のサポートを受けました。いつもながら、素晴らしい機会です。



農芸化学科の先生方



横田先生



加藤先生



野口先生

上が柔らかく、下の方がしっかりと締まった田んぼの土の構造、先生が土の層を崩さないように掬い取って見せてくださるのは、まるで手品の様です。2〜3本をまとめて植えた稲の苗がすでに15本以上に分けつしていることは、子どもたちが一本一本数えて確かめました。そして、アメンボ、オタマジャクシ、カエル、ホウネンエビなどの田んぼの生き物も、観察しました。カエルを掌に長く載せていると温まって弱ってしまうからと、ずっと触っていたい気持ちをぐっと抑える2年生にも成長が感じられます。

農大稲花小の1年生、そして東京農業大学第一高等学校中等部の生徒が植えた苗も元気に育っていました。昨年、一斉臨時休校により、1学期の田植えや田んぼの観察ができなかった2年生ですが、皆で揃って田んぼで学べる日が来たのは、うれしいことでした。

授業は進む

農大稲花小では、日々の授業を大切にしています。子どもたちには、どの科目にも同じように真剣に取り組むことを求めています。1学期も後半にかかる今、落ち着いて授業に臨める子どもがほとんどになってきました。一方、時々、疲れた様子を見せる子どももいて、残念なことです。

疲れたからと、休んだり見学したりするのではなく、疲れないように生活を整えて、授業に集中できるようにすることが大切です。暑くなるこれからの時期、終業式までの毎日を元気に過ごせるようにしたいものです。

なお、本校ではすべての教室や体育館に空調を設置し、適切な温度設定をしています。体育の授業や休み時間にグラウンドで遊んだ後、子どもたちは真っ赤な顔で教室に戻ってきます。涼しくなるには、ちょっと時間がかかるかもしれませんね。とはいえ、手洗いやマスクの着用と同じく、適宜の水分補給は、子どもたちに身についた習慣になっているようです。

校長 夏秋 啓子